

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第 3 0 5 5 2 4 2 号

(45) 発行日 平成 1 1 年 (1 9 9 9) 1 月 1 2 日

(24) 登録日 平成 1 0 年 (1 9 9 8) 1 0 月 1 4 日

(51) Int. Cl. °

A47B 67/00

識別記号

501

庁内整理番号

F I

A47B 67/00

技術表示箇所

501

H

501

C

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 書面 (全 1 4 頁)

(21) 出願番号

実願平 1 0 - 5 6 5 6

(22) 出願日

平成 1 0 年 (1 9 9 8) 6 月 2 3 日

(73) 実用新案権者 5 9 8 1 0 1 1 4 7

株式会社マルミヤ

静岡県静岡市八幡 3 丁目 1 4 番 2 8 号

(72) 考案者 杉田 光臣

静岡県静岡市瀬名 3 丁目 2 5 番 4 0 号

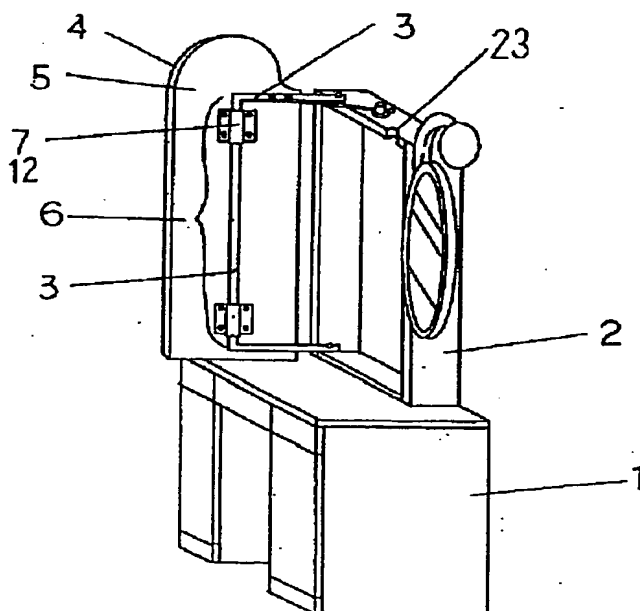
(74) 代理人 弁理士 竹原 正久

(54) 【考案の名称】 鏡 台

(57) 【要約】

【課題】 鏡台の鏡は、袖鏡が正面鏡に蝶番で取り付けられたり、正面鏡が腕木（帆立）に横ねじで取り付けられていたり、鏡は、これらの取り付け部分を軸に回転するのみが多く、使用者が任意な位置で自由な角度で鏡に映し出すには、不向きであった。

【解決手段】 この考案による鏡台は、鏡が鏡の支持体に腕木を介して取り付けられ、鏡と腕木は、同時に、或いはそれぞれ別々に回転できるように構成されている。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】基台（１）に立設されている支持体（２）に、腕木（３）を介して取り付けられた鏡体（４）とからなる鏡台において、

腕木（３）は、その中央部分に折曲部（６）があつて、腕木（３）の両端が、それぞれ、支持体（２）に軸着され、回転するとともに、鏡体（４）の背面（５）が、取付装置（７）によって腕木（３）の折曲部（６）に取り付けられ、鏡体（４）は、腕木（３）を軸として、回転することを特徴とする鏡台。

【請求項 2】前記取付装置（７）は、腕木（３）の外周を取り巻いて設けられている緩衝輪（８）と、この緩衝輪（８）を掛け止める突起（９）を、内側の面に持ち、緩衝輪及び腕木を覆う部分（１０）と鏡体の背面へ取り付け部分（１１）とからなる取付具（１２）と、取付具（１２）に取り付けられ、腕木（３）と取付具（１２）を締め付ける調整ネジ（１３）と、取付具（１２）の下部を支持して、腕木（３）に軸（２２）で固着される支持駒（１４）とから構成されていることを特徴とする請求項 1 記載の鏡台。

【請求項 3】基台（１）に立設されている支持体（２）に、方形の平板（１５）を介して取り付けられた鏡体（４）とからなる鏡台において、

方形の平板（１５）は、その平行な一対の辺の、一辺を支持体（２）に、蝶番（１６）で回転自在に取り付けられ、方形の平板（１５）の、平行な一対の辺の、他の一辺には、鏡体（４）の背面（５）が、蝶番（１６）で回転自在に取り付けられていることを特徴とする鏡台。

【請求項 4】基台（１）に立設されている支持体（２）に、方形の平板（１５）を介して取り付けられた鏡体（４）とからなる鏡台において、

方形の平板（１５）は、その平行な一対の辺の、一辺の部分（１７）の上面（１８）、下面（１９）が支持体（２）に、回転自在に軸着され、方形の平板（１５）の、平行な一対の辺の、他の一辺には、鏡体（４）を吊り下げる掛止鉤（２０）が取り付けられ、これに対応する鏡体（４）の背面（５）には、鉤受け（２１）が設けられ、鏡体（４）が、鉤受け（２１）で、掛止鉤（２０）に、吊り下げられ、鏡体（４）は、掛止鉤（２０）を軸として、回転することを特徴とする鏡台。

【図面の簡単な説明】

【図 1】請求項 1 記載の鏡台の実施の形態の一つを示す斜視図である。

【図 2】請求項 3 記載の鏡台の実施の形態の一つを示す斜視図である。

【図 3】請求項 4 記載の鏡台の実施の形態の一つを示す斜視図である。

【図 4】請求項 1 記載の鏡台の支持体への腕木、鏡体の

2

取り付け状態を示す図である。

【図 5】請求項 2 記載の取付装置の平面図である。

【図 6】図 5 記載の取付装置の A-A 線断面図である。

【図 7】請求項 2 記載の取付装置の取り付け状態を示す縦断面図である。

【図 8】請求項 4 記載の鏡台の支持体への方形の平板、鏡体の取り付け状態を示す図である。

【図 9】腕木の支持体への取り付け方法・位置を示す図である。

10 【図 10】腕木の支持体への取り付け方法・位置を示す図である。

【図 11】腕木の支持体への取り付け方法・位置を示す図である。

【図 12】腕木の支持体への取り付け方法・位置を示す図である。

【図 13】請求項 1 記載の考案による鏡台のその他の実施の形態を示す斜視図である。

【図 14】この考案による鏡台の、その他の実施の形態を示す平面図である。

20 【図 15】腕木と鏡体の動きの推移を示す図である。

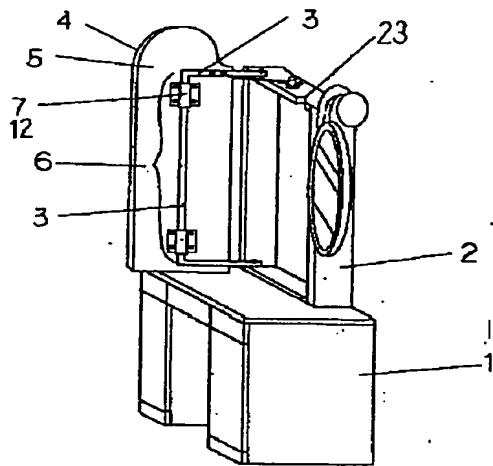
【図 16】請求項 1 記載の考案による鏡台のその他の実施の形態を示す斜視図である。

【図 17】請求項 1 記載の考案による鏡台のその他の実施の形態を示す斜視図である。

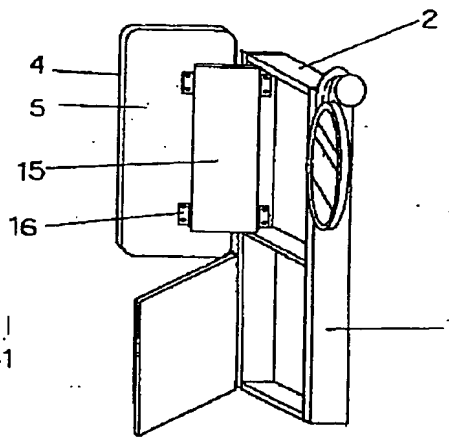
【符号の説明】

- | | |
|----|--------------|
| 1 | 基台 |
| 2 | 支持体 |
| 3 | 腕木 |
| 4 | 鏡体 |
| 5 | 背面 |
| 6 | 折曲部 |
| 7 | 取付装置 |
| 8 | 緩衝輪 |
| 9 | 突起 |
| 10 | 緩衝輪及び腕木を覆う部分 |
| 11 | 鏡体の背面へ取り付け部分 |
| 12 | 取付具 |
| 13 | 調整ネジ |
| 14 | 支持駒 |
| 15 | 方形の平板 |
| 16 | 蝶番 |
| 17 | 一辺の部分 |
| 18 | 上面 |
| 19 | 下面 |
| 20 | 掛止鉤 |
| 21 | 鉤受け |
| 22 | 軸 |
| 23 | 凹部 |

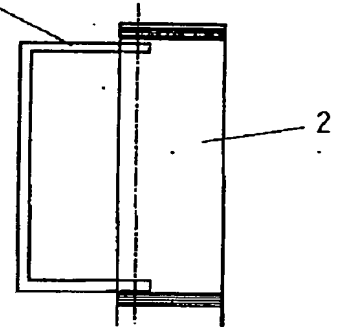
【図 1】



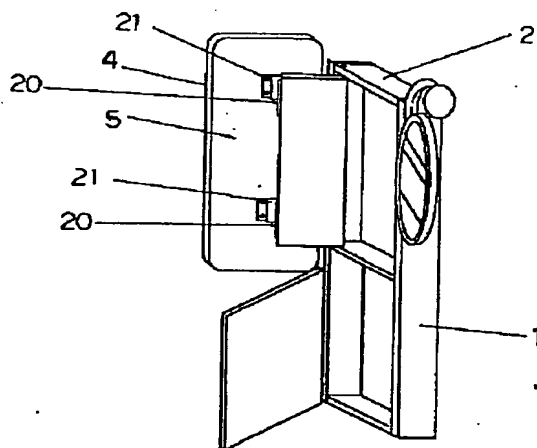
【図 2】



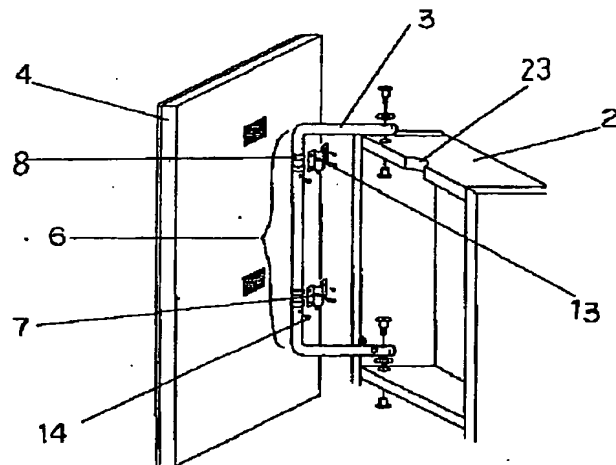
【図 10】



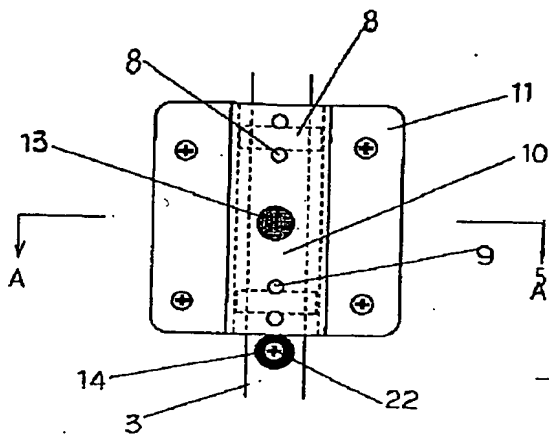
【図 3】



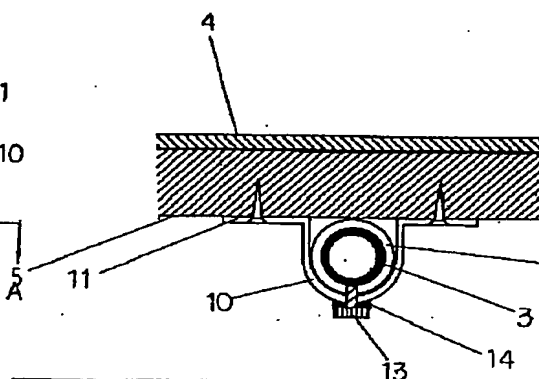
【図 4】



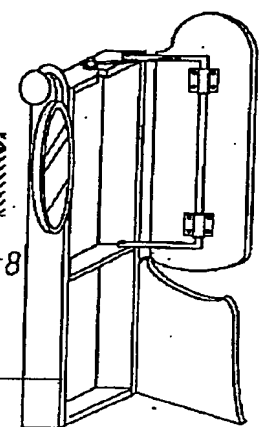
【図 5】



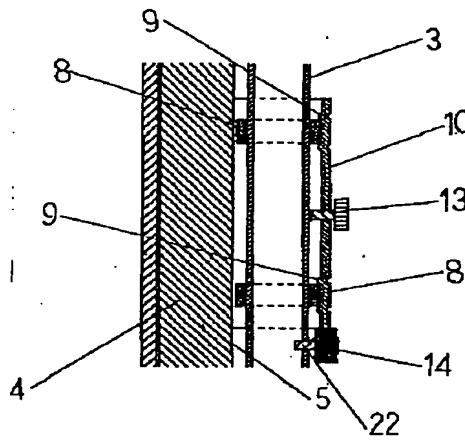
【図 6】



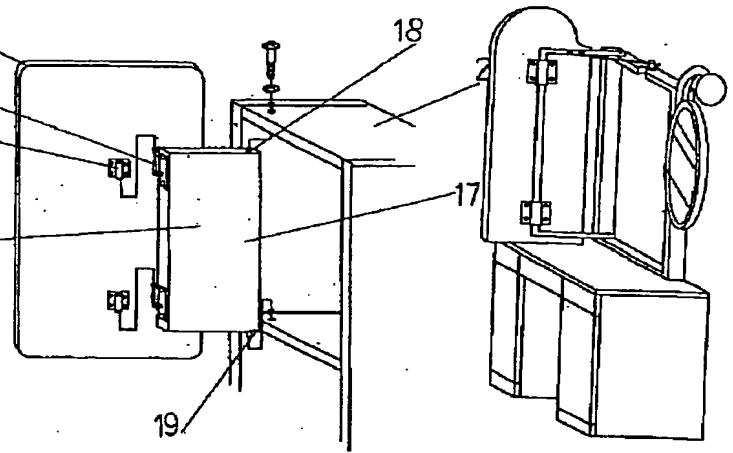
【図 13】



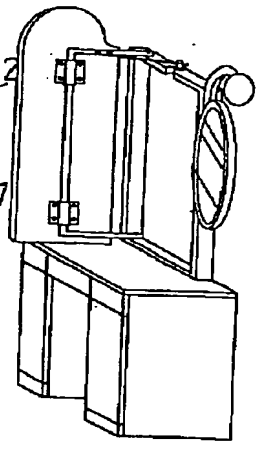
【図 7】



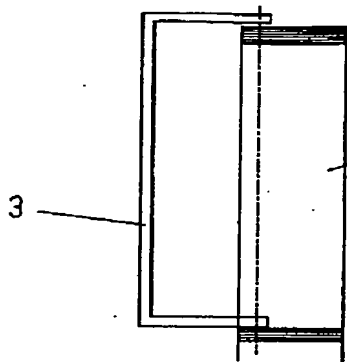
【図 8】



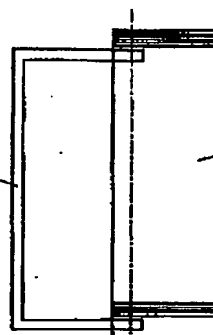
【図 16】



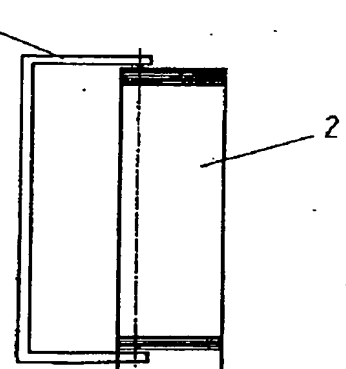
【図 9】



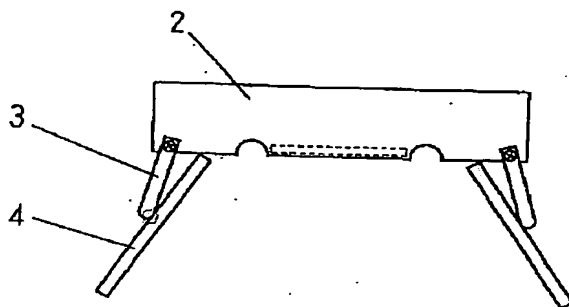
【図 11】



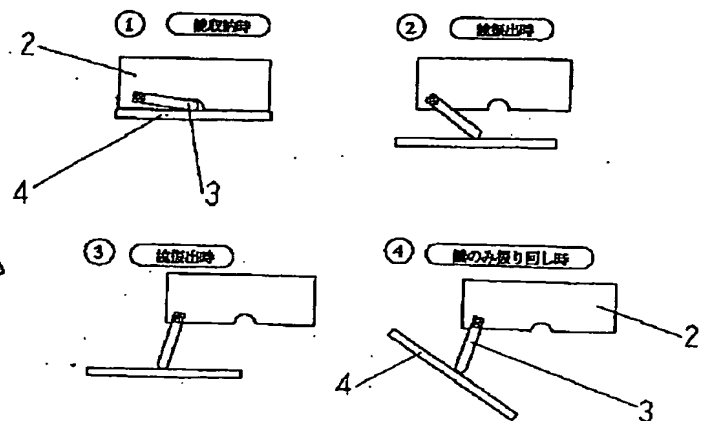
【図 12】



【図 14】



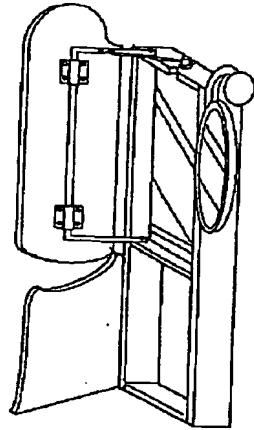
【図 15】



(5)

実登 3 0 5 5 2 4 2

【図 1 7】



【 考 案 の 詳 細 な 説 明 】

【 0 0 0 1 】

【 考 案 の 属 す る 技 術 分 野 】

この考案は、鏡体の開く角度や鏡面の使用者に接する位置を、自由に調整し、変更することのできる鏡台に関する。

【 0 0 0 2 】

【 従 来 の 技 術 】

これまで、鏡台の袖鏡の正面鏡への取り付けや、開、閉ができる正面鏡の支持体への取り付けに、蝶番を使用して、取り付けられるもの、或いは正面鏡が腕木（帆立）に横ねじ等で軸着されているものなどが多く、これらは、蝶番又は横ねじで取り付けられた部分を軸として、鏡体が回動する構造であった。

【 0 0 0 3 】

【 考 案 の 解 決 し よ う と す る 課 題 】

この考案は、従来のような、鏡体が支持体に直接に取り付けられているものと異なり、請求項 1 記載の考案によるものは、鏡体が、支持体との間に、腕木を介在させて取り付けられ、腕木、鏡体が、それぞれ回動することができる構造であり、また、請求項 3 及び請求項 4 記載の考案によるものは、請求項 1 にいう腕木に代えて、鏡体と支持体との間に、方形の平板を介在させて、方形の平板、鏡体が、それぞれ回動することができる構造であり、これらは、どちらも、鏡体の開いたり、閉じたりする角度を、自由に調節できることによって、鏡面の使用者への接近距離、接近方向などを最適な状況に設定できる鏡台を提供しようとするものである。

【 0 0 0 4 】

【 課 題 を 解 決 す る た め の 手 段 】

請求項 1 記載の考案は、基台（１）に立設されている支持体（２）に腕木（３）を介して取り付けられている鏡体（４）とからなる鏡台において、

腕木（３）は、その中央部分に折曲部（６）があって、腕木（３）の両端が、それぞれ、支持体（２）に軸着されていて、この軸着部分を軸に腕木（３）が回動するとともに、鏡体（４）の背面（５）が、取付装置（７）によって、腕木（

3) の折曲部 (6) に取り付けられ、鏡体 (4) は、腕木 (3) を軸として、回転することができる構成である。

【 0 0 0 5 】

請求項 2 記載の考案は、鏡体 (4) の背面 (5) を、腕木 (3) へ取り付ける取付装置 (7) の構成についてである。

この取付装置 (7) は、取付具 (1 2) と調整ネジ (1 3) 及び支持駒 (1 4) によって構成されている。

取付具 (1 2) は、腕木 (3) の外周を取り巻いて設けられている緩衝輪 (8) と、この緩衝輪 (8) を掛け止める突起 (9) を内側に持ち、緩衝輪及び腕木を覆う部分 (1 0) と鏡体の背面へ取り付ける部分 (1 1) とによって構成されている。

調整ネジ (1 3) は、取付具 (1 2) に捻込まれて、その先端が腕木 (3) に達し、腕木 (3) と取付具 (1 2) を締め付けて、調整する。

支持駒 (1 4) は、取付具 (1 2) が滑り落ちないように支持するため、腕木 (3) に、軸 (2 2) によって固着され、取付具 (1 2) の下部を支えている。

【 0 0 0 6 】

請求項 3 及び請求項 4 記載の考案は、請求項 1 記載の考案にかかる腕木 (3) に代わり、これを、方形の平板 (1 5) をもって構成する鏡台に関するものである。

即ち、基台 (1) に立設されている支持体 (2) に、方形の平板 (1 5) を介して取り付けられた鏡体 (4) とからなる鏡台において、

請求項 3 記載のものについては、方形の平板 (1 5) は、その平行な一対の辺の、一辺を支持体 (2) に、方形の平板 (1 5) の、平行な一対の辺の、他の一辺には、鏡体 (4) の背面 (5) が、それぞれ、蝶番 (1 6) により、取り付けられ、方形の平板 (1 5) と鏡体 (4) は、蝶番 (1 6) により、それぞれ、回転するように構成されている。

【 0 0 0 7 】

請求項 4 記載のものについては、方形の平板 (1 5) は、その平行な一対の辺の、一辺の部分 (1 7) の上面 (1 8) と下面 (1 9) が支持体 (2) に、回転

自在に軸着され、方形の平板（１５）の、平行な一对の辺の、他の一辺には、鏡体（４）を吊り下げる掛止鉤（２０）が取り付けられ、これに対する鏡体（４）の背面（５）に、鉤受け（２１）が取り付けられて、鏡体（４）は、鉤受け（２１）で、掛止鉤（２０）に吊り下げられて、鏡体（４）は、吊り下げている掛止鉤（２０）を軸として、回動するように構成されている。

【 0 0 0 8 】

ここで、支持体（２）とは、鏡体（４）及び腕木（３）を支持し、腕木（３）を取り付ける物体をいう。

具体的には、収納箱、正面鏡が収められた収納箱、ロッカーなどの収納戸棚、支持柱又は厚手の平板などで、鏡体（４）、腕木（３）などを十分に支持する力があり、腕木（３）を取り付けることができるものである。

ここで、基台（１）とは、台はもとよりのこと、収納箱、ロッカーなどの収納戸棚、机状のもの、両袖に箱のついた机状のもの、などの支持体（２）を安定的に立設できるものである。

また、ここで、緩衝輪（８）とは、腕木（３）を取り巻いて設けられる輪状のもので、適度の硬さをもっている。

【 0 0 0 9 】

【 考案の実施の形態 】

この考案の実施の形態の一つについて説明する。

この考案による鏡台は、基台（１）に立設された支持体（２）に、腕木（３）を介在させて、取り付けられている鏡体（４）とから構成されている。

支持体（２）は、鏡体（４）及び腕木（３）を支え、腕木（３）を取り付けることができる物体をいい、具体的には、収納箱、正面鏡が収められた収納箱、ロッカーなどの収納戸棚、支持柱或いは厚手の平板などで、鏡体（４）、腕木（３）などを支え、かつ、これを取り付けることができるものをいう。

基台（１）は、支持体（２）を安定的に支えることができる台、収納箱、ロッカーなどの収納戸棚、机状のもの、両袖に箱のついた机状のもの、などである。

腕木（３）は、その中央部分に折曲部（６）があつて、ここから、腕木（３）の両端は、それぞれ伸びていって、その一方が収納箱の天板に、片方が地板（又

は天板と平行に設けられ、収納箱に固定されている中板など。以下「又は中板」という。)に、ボルト等によって軸着されて、これを軸に腕木(3)は、回転することができるようになっている。

鏡体(4)は、鏡体(4)の背面(5)で、取付装置(7)によって、腕木(3)に取り付けられている。

腕木(3)の折曲部(6)は、鏡体(4)の背面(5)に沿って接しているの
で、鏡体(4)を十分支持するために、必要な数の取付装置(7)によって、鏡
体(4)を腕木(3)に取り付ける。

腕木(3)は、パイプ状のものをを用いるが、中の詰まった円柱状のものでもよ
い。

腕木の材料は、スチール、ステンレススチールなどの金属類、プラスチックな
どの合成樹脂、木材などである。

【 0 0 1 0 】

腕木(3)の支持体(2)への取り付けには、支持体(2)の形状によって違
いがある。

支持体(2)が、例えば、収納箱などの箱形のもののときは、箱の天板と地板
(又は中板)の、それぞれ腕木を軸着する箇所に、ボルトを通す穴を開け、腕木
(3)の両端にも、ボルトを通す穴を開ける。

腕木(3)の一端を収納箱の天板の上面に、腕木(3)の他の一端を収納箱の
地板(又は中板)の上面に置き、これをボルトとナットで締め付けて、腕木(3)
を収納箱などの支持体に、図9に示すように取り付ける。

この他、腕木(3)の収納箱などの箱形のものへの取り付けには、次のような
方法がある。

腕木(3)の両端を収納箱などの天板と地板(又は中板)の間に挟むようにし
、腕木の一端を収納箱などの天板の下面に、腕木(3)の他の一端を収納箱など
の地板(又は中板)の上面に、図10に示すように取り付けるもの。

腕木(3)の一端を収納箱などの天板の下面に、腕木(3)の他の一端を収納
箱などの地板(又は中板)の下面に、図11に示すように取り付けるもの。

腕木(3)の両端で収納箱などを外側から挟むようにし、腕木(3)の一端を

収納箱などの天板の上面に、腕木（３）の他の一端を収納箱などの地板（又は中板）の下面に、図１２に示すように取り付けるもの、などがある。

収納箱などの天板と地板（又は中板）の一部を削って、凹部（２３）をつくり、この凹部（２３）に腕木（３）を収容できるようにする。

【 0 0 1 1 】

鏡体（４）の背面（５）に沿って接している腕木（３）の折曲部（６）に、鏡体（４）の背面（５）を、取付装置（７）によって、取り付ける。

取付装置（７）は、鏡体（４）の大きさ、鏡体（４）の重量、これを支える腕木（３）の大きさ、腕木（３）重量などを勘案のうえ、これらを十分に支持するのに、必要な数を取り付ける。

取付装置（７）は、取付具（１２）、調整ネジ（１３）及び支持駒（１４）からなる。

取付具（１２）には、腕木（３）の外周を取り巻いて設けられている緩衝輪（８）と、この緩衝輪（８）を掛け止める突起（９）が内側に付けられていて、緩衝輪及び腕木を覆う部分（１０）と、鏡体の背面へ取り付ける部分（１１）とによって構成されている。

緩衝輪（８）は、腕木（３）の周りを取り巻いて付けられいる輪状のもので、取付具（１２）と腕木（３）との間にあって、脱落防止のために、取付具（１２）に付けられた突起（９）によって、掛止されている。

緩衝輪（８）は、適度の硬さをもち、腕木（３）や鏡体（４）が回転するときの、軋み音や衝撃を緩和し、これらの滑らかな動きを促す作用をもっている。

緩衝輪（８）は、プラスチックなどの合成樹脂を材料として、つくられる。

取付具（１２）のうち、緩衝輪と腕木を覆う部分（１０）の内側につけられている突起（９）は、緩衝輪（８）を掛止するため、緩衝輪（８）の上面と下面を挟むことができるように、取付具（１２）の内側に突き出して設けられている。

取付具（１２）は、鏡体の背面へ取り付ける部分（１１）で、ネジなどによって、鏡体（４）の背面（５）に固着されている。

取付具（緩衝輪を除く。）は、金属製の平板を成形加工した金具、加工したプラスチックなどの合成樹脂、加工した木材などでつくられている。

【 0 0 1 2 】

調整ネジ（１３）は、取付具（１２）の緩衝輪及び腕木を覆う部分（１０）の外側の中央部分から捻込まれて、その先端が、腕木（３）に達して、止まっている。

調整ネジ（１３）は、ネジを締めたり、弛めたりして、腕木（３）や取付具（１２）の動きを調整し、結果的には、鏡体（４）の過剰な動きを規制することができる。

【 0 0 1 3 】

支持駒（１４）は、軸（２２）によって、腕木（３）に固着されていて、この軸（２２）を回転軸として回る輪状のものである。

支持駒（１４）は、取付具（１２）が、鏡体（４）と一緒に滑り落ちないように、取付具（１２）の下部を支えている。

支持駒（１４）は、鏡体（４）の動きに従って動く取付具（１２）の、動きを受けて回る。

支持駒（１４）の軸（２２）には、取付具（１２）及び鏡体（４）の重量に十分耐える強度をもつ、金属を用いる。

支持駒（１４）は、硬質ゴム、合成樹脂、金属又は木材などを材料としてつくる。

【 0 0 1 4 】

請求項 3 及び請求項 4 記載の考案による鏡台は、基台（１）に立設されている支持体（２）に、請求項 1 記載の考案による腕木（３）の代わりに、方形の平板（１５）を介して取り付けられた鏡体（４）とからなる鏡台である。

即ち、腕木（３）が、方形の平板（１５）に置き換えられたものである。

請求項 3 記載のものと、請求項 4 記載のものと相違点は、方形の平板（１５）を支持体（２）及び鏡体（４）へ取り付ける構造に関してである。

【 0 0 1 5 】

請求項 3 記載のものは、方形の平板（１５）は、その平行な一対の辺の、一辺を支持体（２）に、平行な一対の辺の、他の一辺を鏡体（４）の背面（５）に、それぞれ、蝶番（１６）によって、取り付けられている。

方形の平板（１５）と鏡体（４）は、それぞれ、蝶番（１６）により、回動する。

方形の平板（１５）の支持体（２）への取り付けは、支持体（２）の形状によって異なるが、例えば、収納箱形の支持体（２）の場合は、収納箱などの天板と地板（又は中板）の間に、方形の平板（１５）を挟み、これを収納箱の側板の内壁に、蝶番（１６）で、方形の平板（１５）の平行な一対の辺の、一辺の側を取り付ける。

また、鏡体（４）の背面（５）に沿って接している方形の平板（１５）の、平行な一対の辺の、他の一辺の側を鏡体（４）の背面（５）に蝶番で取り付ける。

これは、図２に示すとおりである。

蝶番（１６）の取り付け個数は、鏡体（４）の大きさ、重量、方形の平板（１５）の大きさ、重量などを勘案して、その数を決める。

【 0 0 1 6 】

請求項４記載のものは、方形の平板（１５）は、その平行な一対の辺の、一辺の部分（１７）の上面（１８）と下面（１９）が、それぞれ支持体（２）に回動自在に軸着されている。

方形の平板（１５）は、その平行な一対の辺の、他の一辺には、鏡体（４）を吊り下げる掛止鉤（２０）が取り付けられ、これに対応して、鏡体（４）の背面（５）には、鉤受け（２１）が取り付けられ、掛止鉤（２０）に、鏡体（４）の鉤受け（２１）を引っ掛けて、鏡体（４）を吊り下げ、鏡体（４）は、掛止鉤（２０）を軸に回動する。

また、鏡体（４）は、このような引っ掛け構造で、吊り下げられているため、必要に応じて、自由に取り外しができる。

これを例えば、収納箱形の支持体（２）に取り付けるときは、方形の平板（１５）を、収納箱の天板と地板（又は中板）の間に挟み、方形の平板（１５）の、平行な一対の辺の、一辺の部分（１７）の、方形の平板（１５）の上面（１８）の側で天板に、方形の平板（１５）の下面（１９）の側で地板（又は中板）に軸着する。

掛止鉤（２０）は、方形の平板（１５）の、平行な一対の辺の、他の一辺の側

に取り付けられた、鏡体（４）の鉤受け（２１）を引っ掛けるＬ字の鉤状のものである。

鏡体（４）の背面（５）に取り付ける鉤受け（２１）は、掛止鉤（２０）の鉤の垂直に立ち上がった部分に引っ掛ける円筒状のもので、掛止鉤（２０）のこの鉤の部分を軸として、鏡体（４）が回転するように取り付けられる。

これは、図３及び図８に示すとおりである。

掛止鉤（２０）とこれに対応する鉤受け（２１）の個数は、鏡体（４）、方形の平板（１５）の大きさ、重量などを勘案して、その数を決める。

掛止鉤（２０）及び鉤受け（２１）には、スチール、ステンレススチールなどの金属を用いる。

【 0 0 1 7 】

請求項３及び請求項４記載の考案によるものの、方形の平板（１５）の他に、これに代わるものとして、格子戸状のもの、網戸状のもの、窓付きの平板などがある。

【 0 0 1 8 】

請求項１、請求項３及び請求項４記載の考案による鏡台において、鏡体（４）が、収納箱、収納戸棚などの箱形の支持体（２）の左、右の、いずれにでも取り付けることができることは、図１３に示すとおりである。

また、これらの他に、二つ以上の鏡体（４）を並列に、図１４に示すとおり、取り付けすることもできる。

【 0 0 1 9 】

請求項１記載の考案による鏡台は、腕木（３）が動くほかに、腕木（３）に取り付けられた鏡体（４）が、腕木（３）と同時に、又は、単独で動くような構成であるため、鏡の使用のときは、腕木（３）を動かして、鏡体（４）を使用者に近付け、使用者が最も望み、かつ、見易い位置に鏡面を向けることができる作用特性をもっている。

これは、図１５に示すとおりである。

請求項３及び請求項４記載の考案による鏡台も、腕木が、方形の平板（１５）に代わるのみで、作用については、全く請求項１記載のものと同様である。

【 0 0 2 0 】

請求項 1、請求項 3 及び請求項 4 記載の考案による鏡台において、腕木（3）又は方形の平板（15）は、鏡体（4）の背面（5）のどこにでも取り付けることができるが、鏡体（4）の回転する有効な角度を確保するためには、鏡体（4）の背面（5）の中央が好ましい。

【 0 0 2 1 】

また、この考案による鏡台は、鏡体（4）を縦長にすることによって、姿見鏡台として、使用できる。

【 0 0 2 2 】

この鏡台の応用としては、この考案にかかる鏡台の鏡体（4）を一方の袖鏡とし、支持体（2）の部分に正面鏡を付け、かつ、他の一方に袖鏡を付け、なお、照明器具をも付け、これらが回転できるようにしておけば、合わせ鏡として、或いは、三面鏡として、使用することができる。

この場合、他の一方につける袖鏡にも、この考案にかかる鏡台の鏡体（4）をつけた三面鏡とすることもできる。

また、その他のものとしては、請求項 1、請求項 3 及び請求項 4 記載の考案による鏡台の鏡体（4）の代わりに、鏡体（4）のあった位置に、収納箱や収納棚を取り付けることによって、一味違う収納家具を提供することができる。

【 0 0 2 3 】

【 考案の効果 】

この考案による鏡台には、次のような効果がある。

（あ） 腕木又は方形の平板を振り出し、鏡をスイングするようにして、使用者に近付けて利用できる。

（い） 鏡は、開き角度を自由に変えることができるので、使用者の周囲を回りながら鏡面を使用者に向けることができる。

（う） 鏡は、開き角度を自由に変えることができるので、鏡台の前で、使用者が、自らの体をうごかさずに、鏡を開けることができ、また、鏡体の前に置いてあるものに触らずに、鏡面を開くことができる。